

「学校美術館」の取組を中心に

取組概要

「体感しよう ぼくらの現代アート展」として、中学校3年生が学校美術館での作品解説に挑みました。自分で絵画作品を選び、その作家との交流やジュニア学芸員として作品解説する活動を通して、感じたことや考えを伝える過程を認められる取組となりました。

1 生徒の課題から

- 中学3年生 1学級 (39人)
- 職員数 17名
- 本校の生徒は幼小より家族や学校、地域社会で温かく見守られてきています。その反面、物事を多面的、多角的に考えたり、自分の思いや考えを発言したりすることを苦手としていました。これは、自分の考えたことや思ったことを表現し認められる活動が少ないことにあるのではないかと考えました。



2 目標を立て

- ☆ 自分の考えをまとめる力、人に伝える力、自分の感動を表現し発信する力を育成する。
- ☆ 自分達で自主的に企画・運営する力を育成する。
- ☆ 「学校美術館」について、事前の親子ふれあい活動等を通して、広報を行い、地域や家庭に周知し連携を図る。
- ☆ 実際に交流できる作家と連携を図る。
 - ※ 計画
 - ・総合的な学習の時間...10時間
 - ・美術の時間 ... 5時間
 - ・1~2名の作家に対して1班(3~4名)で担当
 - ・10班集体(作家18名)



学校美術館のパンフレット

3 鍛えて、ほめてみると

【目標設定】

(1) 自主的な推進委員会、作品の自己決定、作家との交流会の場を設定

「ぼくらの現代アート展」を成功させるという学年の目標をもたせるために、生徒に学校美術館推進委員会を立ち上げさせました。このことにより、生徒は自分達で企画して学校美術館を運営するという当事者意識を持ちました。

教師が予め設定しておいた多数の作家の中から、自分が気に入った作品を選ばせ、「選んだアートのすばらしさを地域の大人に伝えるための解説をすることができるようになる」という個人目標をもたせました。

その後、実物大の作品を鑑賞させ、作家に実際に会って交流できるようにしました。

これらのことにより、生徒は目標達成への意欲を高め、解説のシミュレーション活動へと発展させていくことができました。



学校美術館推進委員会の様子



生徒の質問に真剣に答える作家

【拙】

(2) 「学校美術館」を開催し、地域の方に発信する場を設定

リハーサルをして挑んだ学校美術館の当日。生徒は、地域の大人の想定外の質問にも、作家から得た情報を駆使して自分の言葉で答えていました。

この生徒の姿に、地域の大人は大きな拍手を送っていました。実践前までは人前で話すことに苦手意識をもっていた生徒も、思った以上に解説できたことを喜んでいました。これまで生徒に関わってきた作家も、この日は学校美術館を訪れ、自分の作品を解説する生徒に感動し、拍手を送っていました。



地域の方に作品を解説する生徒

【ほめる】

(3) 自己の学びや関わった人々への思い等を言葉で伝える場を設定

生徒は学校美術館の企画・運営や作品解説までの過程を振り返りました。

生徒の振り返りには、右の感想にあるような、学校美術館を成功させた充実感や地域の方に解説できるようになった達成感、ほめられたことの喜びについて書かれていました。

生徒の主体性を大切に、自ら作品を決めさせ、作家と交流できるようにしたことの効果がうかがえました。

(中略) 次々にお客さんが来られてたくさん説明しました。たくさん質問をされたけど、どの質問にもちゃんと答えられたのでよかったです。中にはリハーサルでは出てこなかった質問もあり、ちょっとドキドキした場面もありました。でも、私的にきちんと説明できたのでよかったです。お客さんが納得されるまで話したり作品の見どころを説明したりして、いつもなら、面倒くさいなど思うことも今日は楽しくできました。

学校で美術館を開くというのは、普通ならできないことだと思います。でも、あんなにいい学校美術館が開けたのでとても嬉しいです。先生方、作家さん、友達、全ての人のおかげで、楽しく、いい学校美術館になったと思います。とても感謝しています。たくさんの人にほめられて、中学校最後の行事が大成功に終わってよかったです。

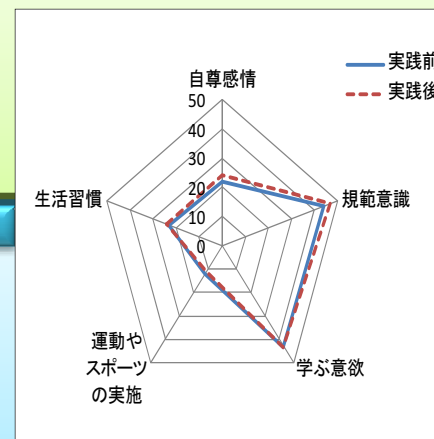
生徒の振り返り (一部抜粋)

4 こんな成果があった!

- SRT調査結果から、自尊感情が1ポイント、規範意識が2ポイント、学ぶ意欲が1ポイント上がりました。
- 生徒が自分で決めた目標に向かって挑み、自分が感じたことや考えたこと、伝えたいことを地域の大人や作家に発信し、ほめられたことによって、達成感や充実感を味わうことができました。

5 ココがポイント!

- ① **生徒が自分の思いや考えをもつ活動を仕組む!**
自分で作品を選び、実際の作品と出会い、その作家と交流する活動を仕組むことで、作品について他者に伝えたいことが生まれ、目標実現への意欲につながりました。
- ② **地域の大人も鑑賞の楽しさを味わう場づくり**
地域の大人が身近にある美術館という感覚で来校するため、生徒にとっても作品を通して自然なコミュニケーションが可能となります。



SRT尺度ツール結果